

建設常任委員会 所管事務調査報告（令和２年度）

1 経過

No.	開催日	主な調査内容
1	令和２年５月１５日	○ 正副委員長を互選した。 ○ 所管事務調査の閉会中の継続調査の申し出を行った。
2	令和２年６月１８日	○ 令和２年度所管事務調査のスケジュール確認を行った。 ○ 事務事業評価のスケジュールと方法の変更について確認を行った。 ○ 今年度の所管事務調査事項について次の３項目に決定し、各委員が３班に分かれて調査研究を行うこととした。 (1) グランドデザイン（駅周辺の賑わいづくり）について (2) 産業振興（観光振興等含）について (3) インフラ整備（南北道路）について
3	7月7日	○ 所管に係る次の事項について、執行部から説明を受けた。 (1) 府中市グランドデザインについて (2) 広島県水道広域連携について (3) ごみ処理広域化について (4) 合併処理浄化槽補助制度について (5) 府中市南北道路整備事業について (6) 都市計画道路目崎出口線について (7) 府中市通学路ブロック塀安全対策について (8) 地籍調査事業について (9) 芦田川水系河川整備計画（変更原案）（案）について
4	8月4日	○ 所管事務調査事項について、各班から調査内容の報告を行った。 ○ 管内視察について、次の５カ所に決定した。 (1) 高木ポンプ場

		(2) 7月29日の集中豪雨による浸水箇所 (3) 南北道路 (4) 翁座 (5) 角倉邸（観光協会上下支所と意見交換含む） ○ 意見交換会について、次の3カ所に決定した。 (1) 府中商工会議所建設部会 (2) 府中市農業委員会 (3) 府中市観光協会（上下支所除く）
5	9月16日	○ 令和2年度主要事業進捗について執行部から説明を受けた。 ○ 意見交換会の調査事項について決定した。
6	9月23日	○ 7月29日の集中豪雨による浸水について、執行部から説明を受けた。 ○ 高木ポンプ場、集中豪雨による浸水箇所、南北道路、翁座、角倉邸を管内視察し、観光協会上下支所と意見交換を行った。
7	9月24日	○ 府中商工会議所建設部会、農業委員会及び府中市観光協会と意見交換を行った。
8	10月8日	○ グランドデザインについて、執行部から説明を受けた。 ○ 令和2年度主要事業進捗について執行部から説明を受けた。 ○ 事務事業評価について、次の5項目に決定した。 ① 桜が丘団地子育て応援モデル住宅販売事業 ② 産業振興ビジョンの策定 ③ 地域活性化に向けた公共交通の構築 ④ 上下地域の観光振興事業（上下プログラム） ⑤ 駅周辺の賑わいづくり ○ 管内視察のまとめを行った。
9	10月21日	○ 事務事業評価について、抽出した5項目について、評価案を基に協議を行った。
10	10月29日	○ 事業評価の提言について決定し、11月上旬に執行部に提言として提出し、12月議会の本会議で報

		告する旨、議長に申し出をすることで決定した。 ○ 意見交換会のまとめ、意見交換会により生じた疑問点の協議を行った。
11	11月8日・15日	○ 市内4箇所で「議員と語る会」（議会報告会）を開催した。
12	11月18日	○ 意見交換会により生じた疑問点を決定し、執行部へ回答を依頼することで決定した。
13	12月10日	○ 令和元年度決算に係る事務事業評価の提言への対応について、執行部から説明を受けた。 ○ 令和2年度主要事業進捗について執行部から説明を受けた。 ○ 意見交換会により生じた疑問点について、執行部から説明を受けた。
14	令和3年1月25日	○ 意見交換会のまとめを最終決定した。 ○ 所管事務調査報告の内容を協議・決定し、本会議で報告する旨を議長に申し出ることを決定した。

2 管内視察

視 察 日 令和2年9月23日（水）

視 察 先 (1) 高木ポンプ場
(2) 翁座
(3) 泊まれる町家天領上下（角倉邸）

(1) 高木ポンプ場

- ・管理状況、稼働状態はこれといった問題はなく、きちんとされていた。
- ・可動式ポンプの保管場所となっていたが、緊急時に浸水箇所の速やかな対応を行うため、浸水想定地域等へ分散して保管してはどうか。

(2) 翁座

- ・大型投資により、定期公演ができるような施設とせず、施設見学ができる程度の投資に留める。例えば、最小限の投資により見学を可能とし、バーチャルで舞台等が見ることができるよう工夫するのがいいのではないか。

(3) 泊まれる町家天領上下（角倉邸）

- ・宿泊のみの施設ではあるが、投資したからには宿泊数の増加に努める必要がある。また、補助金に頼るだけでなく、今後は、独立採算を目指した運営をするべきである。

3 意見交換会

視 察 日 令和2年9月24日（木）

相 手 先 (1) 府中商工会議所 建設部会
(2) 府中市農業委員会
(3) 府中市観光協会

(1) 府中商工会議所 建設部会

ア 府中市の入札について

- ・入札制度については、他市の制度と比較を行うなどの調査研究を行い、府中市内業者の不利益にならない制度とする必要がある。
- ・入札、工事発注において、府中市が「災害に備えた強靱なまちづくり」を図るためには、市内業者の確保・育成が必要である。そのためには、府中市が今後5年、10年後の計画を示し、市内業者が設備投資や人材確保等の事業計画を策定できるようにする必要がある。
- ・今後、災害対応にあたる業者の人員の減少を考慮すれば、一定程度の市外業者の確保が必要である。市内業者に配慮しながら一定程度は市外業者に発注する必要がある。

イ 災害復旧について

- ・山間地の災害工事は狭い場所など難しい工事となるため、時間や人員が多く必要となり、災害工事受注により赤字が発生している。災害工事の積算は現場にあった適正価格で精算する必要がある。

ウ 南北道路について

- ・用地買収の遅れは、行政が交渉に着手する時期がおくれたことを反省する必要がある。
- ・意見交換では、工事の進捗は通常であるとの意見を聴取したが、今後もその進捗が遅れないよう、執行部から県へ予算の確保を継続して要望することを求め、委員会としての対応が必要な場合は、執行部と共に要望活動を行う必要がある。

エ 空き家対策について

- ・空き家の利活用促進と同時に、これ以上空き家を増やさないような施策が必要である。例えば相続時の登記変更を促したり、空き家への税制優遇を廃止するなど。
- ・空き家の利活用について、昨年行った意向調査結果を早急にまとめ、所有者のニーズに応じて、空き家バンク制度や空き家除去に対する補助金等の情報提供を行う必要がある。

- ・特定空き家や解体が必要な物件で、特に通学路や生活道路に面している場合には、早急に安全確保を図るために早期解体を行う必要がある。
- ・中心市街地内の古いまちの再開発の意見があったが、大規模な予算を伴うことから、有利な補助金等が充実された時に検討することとする。

オ 桜が丘団地について

- ・販売目標の年22区画について、現実的に目標達成していない実態があるが、債務の返済の目標は計画どおりである。
- ・今までは売れやすい区画から売れていったと思われ、今後は、売れにくい区画を得ることとなると想定される。その代表が、コンクリートで作られている駐車場付きの区画や擁壁が高い区画は、耐用年数が経過し改修が必要となるため、この区画を整地し直すか、販売区画から除外して別用途に利用するなどの対応が必要である。
- ・現在は、各種補助金で実質的な負担減を売りにしているが、各種補助金を廃止して坪単価を値下げした区画を試験的に販売し、好評であれば、全面的に坪単価の値下げを実施するよう提案する。
- ・建築及び居住を条件に土地を無料で提供するなどの提案を行う。

カ コロナの影響について

- ・コロナの影響より、今後、民間投資は減少していくと想定され、業者の不安は大きいため、府中市で工事を伴う計画について、年単位の工事発注計画を示すことで、業者の不安を軽減する必要がある。

キ その他

- ・困難な意見、要望もあったが、いい意見は行政に活かされるよう、委員会で調査検討を行い必要に応じて市側に伝えていく。
- ・府中商工会議所建設業部会の方のある意味、本音が聞くことができたことは大変参考になった。
- ・今後、定期的に意見交換会を実施し、その時々状況の意見を聴取する必要がある。
- ・委員会として、いただいた意見を取りまとめて、調査研究した後、必要な事項については執行部に提言していく。また、対象団体に対して「調査結果」や「府中市への提言（あれば）」を報告する。

(2) 府中市農業委員会

ア 遊休農地解消・発生防止について

- ・農地パトロールには特別な資格は必要ないとのことであり、特に旧府中市内の農地パトロールの人材が不足しており、その確保が必要である。

イ 担い手の確保について

- ・ 農業者の平均年齢が約 70 歳で、新規農業者育成が喫緊の課題である。
- ・ 補助金は担い手不足や育成に役立つと思われるが、補助期間が限定されると効果が低くなるため、10年スパンの補助金を創設するなど市独自の制度が必要である。
- ・ 生産者が直接消費者に販売できる流通ルートの構築や、販路拡大を図る必要がある、そのための専門知識をもった機関等の協力が必要である。
- ・ 農業で特許の取得が必要な場合など、農業も産業と捉え、産業連係室で対応できないか確認し、可能であれば対応してもらうよう求めている。

ウ 農地の集積・集約化について

- ・ 圃場整備については、必要性、地域の合意、自己負担への理など、実行にはハードルが高い。条件が整い、効果が期待できる場合は計画的に実施するよう求めている。

エ その他

- ・ 農業者から率直な意見が聞けたことは大変参考になった。
- ・ 市の農業委員会の職員体制として、県内で専属の係長がいないのは府中市のみであるとのことであった。人員については、他の部署との兼ね合いや優先順位もあるが、体制の強化の必要性はある。
- ・ 委員会として、いただいた意見を取りまとめて、調査研究した後、必要な事項については府中市に提言していく。また、対象団体に対して「調査結果」や「府中市への提言（あれば）」を報告する

(3) 府中市観光協会

ア 府中市観光振興ビジョンについて

- ・ 府中市観光振興ビジョンが策定されたからには、その進捗を定期的に確認していく。

イ 観光協会から見た府中市の観光について

- ・ 観光商品開発、観光資源の磨き上げを行っても、トイレ、道路、駐車場といったハードの整備は急務であり、その必要性は高い。
- ・ 通年でやっている「道の駅」は、磨き上げれば大きな力を発揮するものであり、道の駅の運営について、更にアイデアを出しながら、市外からの観光客を増加させ、回遊してもらうことが必要である。

ウ コロナの影響について

- ・ アフターコロナの際に、大きく観光客を受け入れるための準備期間として捉え、効果的が大きいと判断されるものには、補助金を交付することも考えられる。
- ・ キャンプ場は、コロナ禍でも利用者は増加していることから、この利用者を

リピーターとして確保するため、ニーズを確認し、不足している部分を補う必要がある。

エ その他

- ・観光協会から率直な意見が聞けたことは大変参考になった。
- ・毎年、定期的に行っていくことが必要である。
- ・体験型ツアーなど成功事例の調査・研究を行っていく。
- ・観光協会が独立採算で運営可能となるよう、その可能性のある事業を補助金都等で当面の支援が必要である。
- ・委員会として、頂いた意見を取りまとめて、調査研究した後、必要な事項については府中市に提言していく。また、対象団体に対して「調査結果」や「府中市への提言（あれば）」を報告する。

4 事務事業評価

議員が事業の目的や内容、事業量等を確認し、その成果を妥当性・有効性・効率性等の観点から、その問題点等を明らかにする事務事業評価を実施した。

本委員会では、次の5事業を抽出し、評価を行った結果、次のとおり意見を付して、来年度の予算編成への反映を求め、市長に対し提言した。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| (1) 桜が丘団地子育て応援モデル住宅販売事業 | 【休止・廃止すべき】 |
| (2) 産業振興ビジョンの策定 | 【現状のまま継続すべき】 |
| (3) 地域活性化に向けた公共交通の構築 | 【休止・廃止すべき】 |
| (4) 上下地域の観光振興事業（上下プログラム） | 【一部見直しのうえ継続すべき】 |
| (5) 駅周辺の賑わいづくり | 【現状のまま継続すべき】 |

5 所管事務調査、管内視察、意見交換会などを踏まえ、具体的な対応を求めるもの

(1) グランドデザイン（駅周辺の賑わいづくり）について

グランドデザインの内容については、府中市が持つ魅力、歴史的・産業的価値の再認識は可能であるが、20～30年後の中心市街地や駅周辺のイメージについては、数値的な目標など具体性が乏しく、希望的及び抽象的な内容が多く、市民にはわかりづらいと思われる。

遠い未来も大切であるが、近い未来によって、未来は大きく変化すると思われ、また、現在、描いているイメージも、時代にはそぐわなくなる可能性もあることから、進捗管理や内容の見直しを行いながら取り組まれない。

現在、まちづくりに取り組んでいる、市民、団体等が芽生えている状況は大変重要であり、市が後押しできる部分は、積極的に支援されたい。

(2) 産業振興（観光振興等含）について

産業連係室が設置され、事業者からの相談や訪問により、各事業所が抱える問題・課題の抽出・分析・解決策の提案や、品質や生産性の向上・合理化などの技術指導も行われ、事業者にはとても力強い存在となっている。今後、産業連係室の更なる機能強化を図られたい。

また、農業も産業と捉え、産業連係室で対応するよう検討されたい。

観光振興については、観光商品開発、観光資源の磨き上げは必要であるが、トイレ、道路、駐車場といったハードの整備と併せて取り組まれない。

単発のイベントと違い、通年で営業している「道の駅」は、磨き上げれば大きな力を発揮するものであり、その運営について、更にアイデアを出しながら、市外からの観光客を増加させ、回遊してもらうよう取り組まれない。

(3) インフラ整備（南北道路）について

府中市の賑わいづくり、産業振興、観光振興など、全てに関わるのはインフラ整備であり、その中でも南北道路は最重要である。

全線開通が一番であるが、まず、A工区、B工区を優先的に開通するよう、継続して広島県への働きかけをされたい。

また、用地交渉の遅れについては、地権者の理解を得られるよう、これまで以上に慎重かつ丁寧な対応を図られたい。